

誰だって、年を取れば忘れっぽくなる。「ひょっとして、認知症の始まりっか」と不安になる。が、「自分だけは違う」と思いたい。プライドのせいっか？

71歳で一人暮らしのS子さん。自分でも忘れっぽくなったと思う。遠方に住む娘が、「一度医者で診てもらって」「とやかましい。いやいや来院した。

S子さんのも忘れは、自分にしか分からない主観的認知障害ではない。知能評価スケールで、軽度だが記憶力低下がみられる。新しいことを覚えることが困難で、ちょっと先にしたことや聞いたことを忘れてしまう。それで、前に聞いたことを忘れて、同じ事を何度も聞き返したりするのである。でも、頭のMRI（磁気共鳴画像装置）の検査では、年齢相応の脳萎縮がみられるだけである。

記憶障害はあるのだが、ひとりの暮らしで身の回りのことに不自由はないそうだ。それが本ならば、日常生活に支障のある認知症ではない。Sさんは、正常と認知症の間の「軽度認知障害(MCI)」と云うことになる。

さて、MCIのひとは、1年間に約10%が認知症に移行するとされている。認知症の中で一番多いアルツハイマー型認知症のMCIでは、すでに、脳内にアミロイドβ沈着がみられるという。そういうMCIは、認知症の前段階といえる。そして、認知症になってしまえば、今のところ治す薬はないのである。

でも、怖い話ばかりではない。実は、MCIの状態から正常に戻ることも、よくみられることなのだ。その確率は、14〜44%もある。MCIの段階で投薬野生勝つ改善ができれば、認知障害の進行を先延ばしできる。または、正常化できる可能性があるということになる。

と聞かされて、あなたならどう思うだろうか？ もの忘れで医者で診てもらったなんて、やはりイヤでしようか。

(石黒修三=いへろくりニック・脳神経

外科専門医・3/28北國新聞掲載)